



平成 30 年 7 月 26 日

公共交通や自転車、徒歩などの利用を促す 「ファジウオーカープロジェクト」を 2018 年も実施します

岡山大学、国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブの産官学が中心となり進めている「人・地域・地球にやさしいアクセスのためのファジアーノプロジェクト（ファジウオーカープロジェクト）」では、2017 年より、試合観戦者の岡山県総合グラウンドへのアクセスを、自家用車から公共交通、自転車、徒歩などに転換してもらうための施策を展開するとともに、その効果を学術的に検証しています。2018 年も岡山県総合グラウンドまでのアクセスを自家用車から自発的に転換してもらうための施策「Project11」を展開します。

<概 要>

岡山県総合グラウンド周辺の国道 53 号は慢性的な交通渋滞に悩まされています。また、Jリーグ・ファジアーノ岡山戦が開催されると 1 万人近いサポーターが集まり、にぎわいが創出される一方で、さらなる渋滞などの交通問題を引き起こす要因の 1 つにもなっています。

それらの問題の解決のために、岡山大学、国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブからなる「人・地域・地球にやさしいアクセスのためのファジアーノプロジェクト実行委員会（ファジウオーカープロジェクト）」（委員長：岡山大学大学院環境生命科学研究科氏原岳人准教授）を 2016 年 7 月に立ち上げ、これまで検討してきました。本学からは氏原岳人研究室（大学院環境生命科学研究科）、高岡敦史研究室（大学院教育学研究科）が参画しています。

ファジウオーカープロジェクトは、2017 年より岡山県総合グラウンドまでのアクセスを自家用車から公共交通、自転車、徒歩などに自発的に転換してもらうため、11 の施策「Project11」を展開しています。例えば、サポーターの方々に自家用車以外での来訪手段を具体的にイメージしてもらうためのアンケート調査や、公共交通などへの転換を促すプロジェクト動画をホームゲーム時にスタジアムスクリーンにて放映するなどがあげられます。

今シーズンからはファジウオーカーコンセプトブックの製作・配布、西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）と連携した駅構内や車内での広告展開、ファジアーノサポーターが考える交通標語の国道情報板への掲示を新たに実施する予定です。（プロジェクトの全体像や施策の詳細は記者発表時に説明します。）

なお、自家用車から公共交通、自転車、徒歩などに自発的に転換させる取り組みを「モビリティ・マネジメント」と呼び、交通需要マネジメントのソフト施策として注目されています。

※ファジウオーカー：徒歩や自転車、公共交通等のアクセス手段によってファジアーノ岡山のホームゲーム時にスタジアムやその周辺を訪れる人



PRESS RELEASE

<期待される成果>

ファジウォーカープロジェクトでは、岡山県総合グラウンド周辺の渋滞緩和や駐車場問題の解消に加えて、地元消費の増加や健康増進、環境負荷の低減など、スポーツ観戦に新たな価値を付与することを目指しています。2017年は、本プロジェクトの実施によって、自家用車利用者の7%（約140台）がそのほかの手段に転換したと推計されました。最終的な目標としては自家用車利用者の2割の削減を目指しています。

<その他>

本取り組みは、岡山大学と国土交通省中国地方整備局との包括的連携・協力に関する協定書に基づき実施されています。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院環境生命科学研究科

准教授 氏原 岳人

（電話番号）086-251-8850

（FAX番号）086-251-8850

（メール）ujihara@okayama-u.ac.jp



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。